

## 2. スカウト一人一人が主役となる教育を行う

### 隊長の特質とは

- (1) 隊長は自分の中に少年の精神を持っていないといけない。そして、その第一歩として自分自身を少年と同じ立場に置くことができないといけない。
- (2) 隊長は少年期の異なった年齢の欲求、展望、願望を知っておかなければならない。
- (3) 隊長は集団としてよりむしろ個人として少年を扱わねばならない。
- (4) そして隊長は最高の成果を得るために隊員たちの中に協力の精神を養わなければならない。

隊長の手引き (AIDS TO SCOUTMASTERSHIP) P 3 より

## 2. スカウト一人一人が主役となる教育を行う

一人一人の中にある良い面を引き出し、伸ばす

バッジシステムの活用が大事

活動を良き方向に教えてくれる成人を見つける

一人一人が班、組、チーム内で実践に移す場をつくる  
(チームシステム)



兄弟のような存在になって接する(家族のように)

詳しくは、「隊長の手引き」  
AIDS TO SCOUTMASTERSHIP  
P4~P5を確認して下さい

スカウトの年代にある欲求、展望、願望を知る

## 2. スカウト一人一人が主役となる教育を行う

### 進歩制度 (バッジシステム)

隊長にバッジシステムという一つの道具を与えるもので、それによって少年の性格を形成する、あるいは技能を伸ばすのに役立てることのできる趣味を、全てのどんな少年に対しても夢中になるように刺激を与えることができるのである。

このバッジシステムは理解と思いやりをもって活用すれば(どんな少年にも)希望と大きな夢を与えることを意図してつくられている。この理由から、**熟練の基準はわざと不明瞭**にしてある。

隊長の手引き (AIDS TO SCOUTMASTERSHIP) P 9 8 より

スカウト一人一人が自発的に行動ができ、個性特長を伸ばすことができる。

↑  
魂のくせ

## 2. スカウト一人一人が主役となる教育を行う

### 班制度 (チームシステム)

チームシステムはまた、正しく運用されるならば性格訓練にとって大きな価値がある。チームシステムは少年一人ひとりに、自分には班のために一定の個人的な責任があることをわからせる。チームシステムは隊のために班は一定の明確な責任を持っているということを各班にわからせる。チームシステムを通じて、隊長は自分の指示だけでなく、スカウトたちの倫理観について自分の考え方も伝えることができる。

隊長の手引き (AIDS TO SCOUTMASTERSHIP) P 5 より

スカウト一人一人の責任、班としての責任を持ち、「ちかい」と「おきて」に基づく、善悪・正邪の判断基準を理解し、正しい行動ができるようになる。

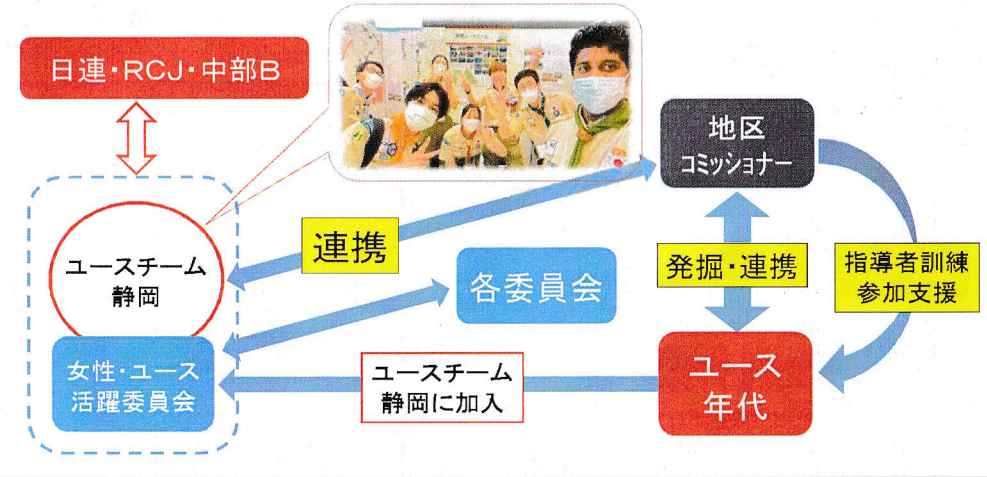
### スカウト一人一人が主役となる教育を行うために

1. 隊長（成人指導者）として、スカウト一人一人をみていますか。
  - ・組織体としてスカウト活動を見ていませんか。
  - ・教育法は手段であり、目的はスカウト一人一人の成長を支援すること。
2. 進歩は個人の取り組みです。
  - ・スカウト一人一人に対し、現在地（進歩状況）を知らせ、進歩への興味を持つように仕向ける。
  - ・スカウト一人一人が、進歩進級項目を研究し、日常生活の中で取り組み実践する。（日常生活でできない項目は活動の中で行う）
3. 一人一人の集合体が組・班・チームです。
  - ・隊に組・班・チームが一つでも、大事なことは、組・班・チームの中で一人一人が役割を持って、その役割に責任を持つこと。
  - ・自分が休むと活動ができないと思うぐらいの責任感を持つように。



お喜ばれ状態・実行が必ずしもX

### 3. ユース年代の拡充および活躍できる環境づくりを推進する



### 4. セーフ・フロム・ハームの徹底

- (1) 「セーフ・フロム・ハーム」セミナーおよび登録前研修の完全実施をめざす。



「セーフ・フロム・ハーム」セミナー、登録前研修は必ず受講しましょう！



### 4. セーフ・フロム・ハームの徹底

- (2) 県連盟コミッショナーおよび地区コミッショナーは、「セーフ・フロム・ハーム」の適切な対応を行う。

